

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	金沢大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナザワダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	まちづくりインターンシップ
	学部・研究科等名	人間社会学域地域創造学類地域プランニングコース
	担当教職員名・役職	鏡味治也・教授、神谷浩夫・教授、山岸雅子・教授、眞鍋知子・准教授、蜂屋大八・准教授、丸谷耕太・助教
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	40	
受入企業等数	8	
受入企業等名	加賀まれびと交流協議会、布施谷活性化推進協議会、小松市役所、鯖江市役所、鳥越市民サービスセンター、Casa(カーサ)小院瀬見、春蘭の里実行委員会、NPOくくのち	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自治体やまちづくり団体等が学生の受入機関となり、学生は当該地域に2週間程度宿泊滞在して地域に起こっている課題の現状を理解するとともに、課題解決のための活動を体験する。この体験により、以降の大学における専門の学修や地域活動への意欲を高め、将来の職業選択や職業意識の育成を図る機会となっている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	地域創造学類では2年次にコースに分かれ、コース専門科目の履修を始める。まちづくりインターンシップは地域プランニングコースの専門科目であり、2年生の必修科目であり、4単位の通年科目である。現地での研修は夏休み期間であるが、学期中には事前・事後指導に取り組んでいる。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
要		

素 ③	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	定時の授業においてビジネスマナー研修を受けるほか、事前合宿においてインターンシップへの動機付け、目標設定、チームビルディングに集中的に取り組む。学生と教員は受入機関を訪問して受入担当者に面会し、研修打合せを行うとともに、事前学習課題を共有して、実施前研修に取り組む。実施前研修の成果を学内で共有する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後にはチームごとの総括を行い、大学内で報告会を実施する。報告会には、学生、教員、受入機関担当者が参加して、取り組み内容を報告するとともに、取り組み成果を共有する。また、報告会までの一連の取り組みについて、TAのアドバイスを受けながらレポートを作成し、報告書にまとめる。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研修期間中に、現地での中間発表と最終報告会を実施する。中間発表は、学生が主に受入機関と大学教員に対して活動報告を行うもので、教員は後半の活動に向けて助言を行うとともに、研修中の状況について把握し、必要に応じて受入機関との調整を行う。最終報告会は、地域関係者も交えて取り組みの成果について報告する。
要素 ④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前合宿のレポート提出、大学内での事前学習成果発表、現地での研修、大学内での最終活動報告、活動報告レポート提出、振り返りレポート提出受入先の評価により、総合的に可否で評価する。
要素 ⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2週間程度
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ研修は、現地での連続した2週間の実施を原則としている。プログラムによっては、2回に分けて実施されることもある。
要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	年度初めに受入機関と大学担当者が取り組み課題について相談をした上でインターンシップ研修のプロジェクトシート(研修テーマ、研修テーマの背景、研修期間、研修内容、学生の役割、研修行程、事前学習課題、その他研修の特徴、受入体勢、担当者)を作成する。研修期間中は、受入機関担当者が終始関与する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問 い 合 わ せ 先	大学等名	金沢大学
	担当部署名	人間社会系事務部学生課教務係
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	佐川哲也
	電話番号	076-264-5580
	メールアドレス	sagawa@ed.kanazawa-u.ac.jp